

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ハッピーなんば教室				公表日	2025 年 10 月 1 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		・利用者さまの人数によって部屋の広さを調整している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		・お子さまの特性や状態に応じて職員の配置の数を増やしている。 ・人員基準以上の人数を配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		・教室内は、段差がなかったり、角に保護具を装着したりしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		・毎朝掃除を行い、清潔を保っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		・集団が苦手なお子さま等に対して個別の部屋を用意し、安心できる居場所作りしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9		・毎月2回程度職員会議を行い、業務改善等について話し合う機会が設けられている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・実施している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・毎月2回程度職員会議を行っており、意見交換等をする機会が設けられている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9		・教室外の内部監査室によるチェックを業務改善の機会としている。	現在は行われていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		・定期的な研修の受講が必須となっており、職員の資質向上を図っている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		・ホームページにて、療育を利用したことがない方にも分かりやすく記載されている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		・お子さまや保護者様のニーズや課題を伺うために必要な時間を十分に取り、アセスメントを行った上で作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		・経験の豊富な職員だけでなく、その利用者様の支援に入ったことがある新人の職員でも意見交換がしやすい会議となっている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		・常に全職員が個別支援計画を確認することができるようになっている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1	・ABA応用分析や療育部のフォーマットを参考にアセスメントをとっている。	社内で統一された書式を用いている。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		・ガイドラインを踏まえた上で保護者様の意向に沿ったねらい及び支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		・職員間で情報共有を行い、相談しながらプログラムを設定している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		・様々な資格を持つ職員がお子さまと関わることで、活動プログラムが固定化しないようになっている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		・お子さまや保護者様のニーズ、職員から見たお子さまの様子に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせるようにご提案し、行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		・毎朝、朝礼時に情報共有を行い、支援等1日のスケジュールを確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		・毎日、支援後に終礼を通じて振り返りを行い、情報を共有している。 ・振り返りを通して今の支援で必要なものを手作り教材として作成している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		・支援の状況、様子が伝わりやすいように具体的に記載している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		・定期的なモニタリングを通して、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	1	・個別支援計画と併せて確認しながら4つの基本活動に通ずる支援を提供している。	意識できていなかった。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	8	1	・支援によってはコーナー遊びのように玩具を提示してお子さまが選択できるような環境を整えている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		・担当者や児発管が基本的に参加するようにしている	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		・整えているが、より多くの関係機関とつながりを持っていく必要がある。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	1	・保護者様と連携して行っている ・定期的に学校と連絡を取り合い、3者面談等も行っている。	送迎等は行っていないが、保護者様の希望により学校との連携を取る場合がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	2		必要なお子さまには実施しようと思うが、現在は実例がない。
30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	5		現状、就労移行に当たる年齢の利用者様がいないため事例がない。該当する利用者様がいた場合に実施する。	

関係機関や保護者との連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	8		・事例がない。 ・助言等を受ける機会はあまりない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		9		現在地域のお子さまたちとの交流機会がない。今後希望に応じて実施を検討していく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	6	3	地域の区役所で行われているこども部会には毎回参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		・フィードバック時や、お子さまの支援中に保護者様とお話する時間を設けている。 ・必要であれば家族支援で面談を行い、子育ての助言をしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2	・実際に子育て中の職員が保護者に対して子育てについてお話する等、具体的な内容の研修を行っている。	ペアトレはできていない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		・見学や契約の際に、資料を用いて説明し、視覚的に内容を理解しやすいようにしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		・お子さまの最善の利益を考慮しているか職員間で確認し合っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		・説明する時間が限られている為、簡潔に分かりやすく説明している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		・必要な場合には家族支援加算の実施をしている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	2	・イベントを通して交流できる機会を提供している。	きょうだい同士の交流の機会は設けていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	1	・ご意見をいただく前に対応できていることが多い。	・相談内容の返答が難しい場合には一度持ち帰り職員全体で検討してからお答えしている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		・HPにブログ等を掲載している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		・連絡帳の入れ間違いが発生しないよう作成後、ダブルチェックを行っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		・電子機器が苦手な保護者様に対しては紙媒体でお知らせしている。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		9		地域に出向き、招待できる関係を築き上げる必要がある。	

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		・マニュアルは共有スペースや職員室に開示し、法で定められた対応を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		・防災担当を中心に訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		・見学や契約の際にシートで確認ができています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	3		食事の提供を行っていないが、保護者様にアレルギー内容の聞き取りと記載をお願いしている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		・安全計画を作成し、計画に沿った研修や訓練を定期的に行い、安全管理の徹底を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		・保護者様が閲覧できる位置に掲載している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		・ヒヤリハットが起こった際に、報告書を記載し、朝礼・終礼時に職員全体で共有している。再発しないように支援に入る前は意識している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		・社内での研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	2	・契約書に掲載している	契約書、重要事項説明書に記載しているが、個別支援計画書には記載していない。	